



2026 年 10 月 1 日

各 位

会 社 名 日本精化株式会社
代表者名 代表取締役 矢野 浩史
執行役員社長
(コード番号 4 3 6 2 東証プライム市場)
問合せ先 経営企画室長 大倉 善弘
(TEL. 0 6 - 6 2 3 1 - 4 7 8 1)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（アップデート）

2026 年 9 月 30 日開催の取締役会において、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」に関し、改めて当社の現状分析と課題認識を行い、今後の改善に向けた取り組み等の内容をアップデートいたしましたのでお知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（アップデート）」をご参照ください。

以 上

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について (アップデート)

2026年10月1日

日本精化株式会社

NFC
VISION
2030

「キレイ」のチカラで みんなを笑顔に

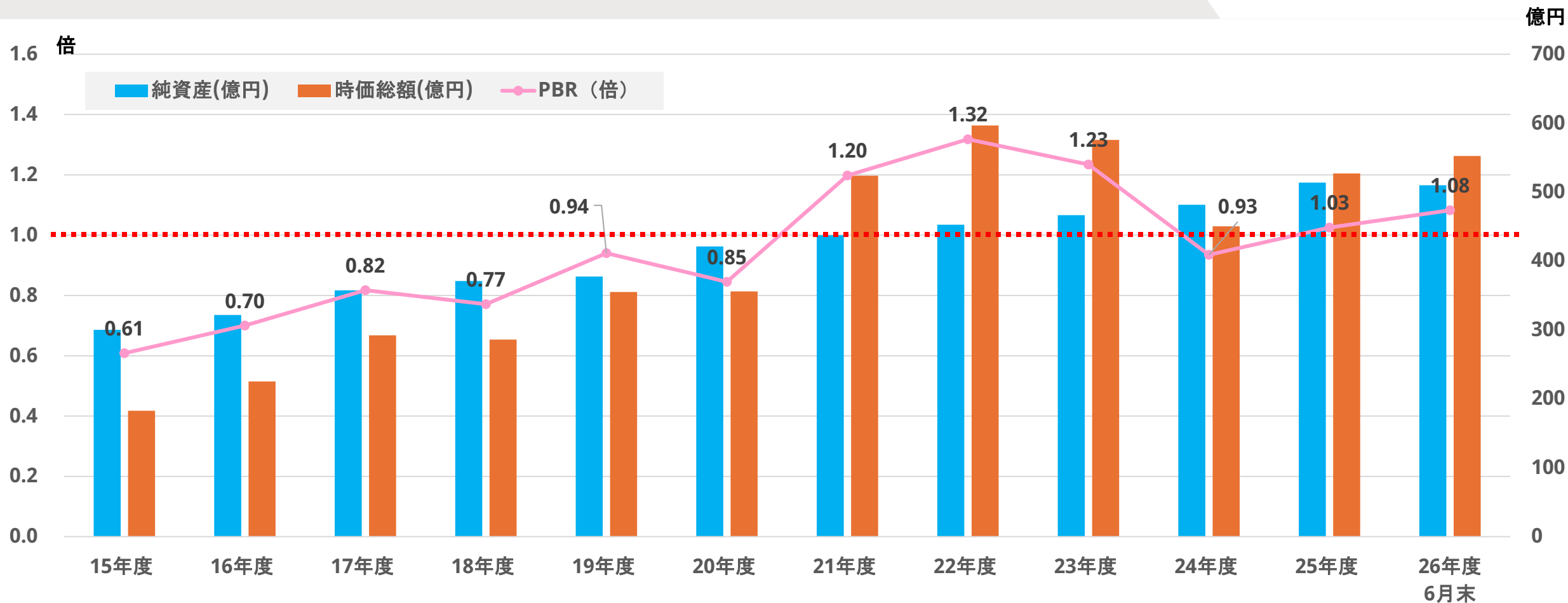
第14次中期経営計画（2023-2026年度）経営目標

	前中期計画	第14次中期経営計画					次期中期計画
	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度		2030年度
	実績	実績	実績	実績	今回予想	目標	ありたい姿
売上高（億円）	368.4	335.3	356.6	338.0	374.0	380.0	480
営業利益（億円）	50.6	42.0	49.0	53.4	57.0	58.0	82
EBITDA（億円）	60.1	55.0	62.5	68.4	71.7	75.1	111
当期純利益（億円）	40.8	33.3	38.7	44.3	52.0	49.0	—
ROIC	7.9%	6.3%	7.1%	7.4%	7.6%	8.0%	10%
ROE	9.2%	7.2%	8.2%	8.9%	10.0%	—	—
設備投資（億円）	5年間 109 ^{（*1）}	17.7	24.7	40.4	4年間 135 ^{（*2）}	4年間 160 ^{（*2）}	—
売上高研究開発費比率	2.4%	2.7%	2.7%	2.8%	2.9%	2.7%	—

・EBITDA：減価償却前営業利益（営業利益＋減価償却費）
 ・ROIC：投下資本利益率（税引後営業利益÷（有利子負債＋自己資本））

*1：2018-2022年度の5年間合計
 *2：2023-2026年度の4年間合計

現状の評価・分析① 株価純資産倍率（PBR）の推移



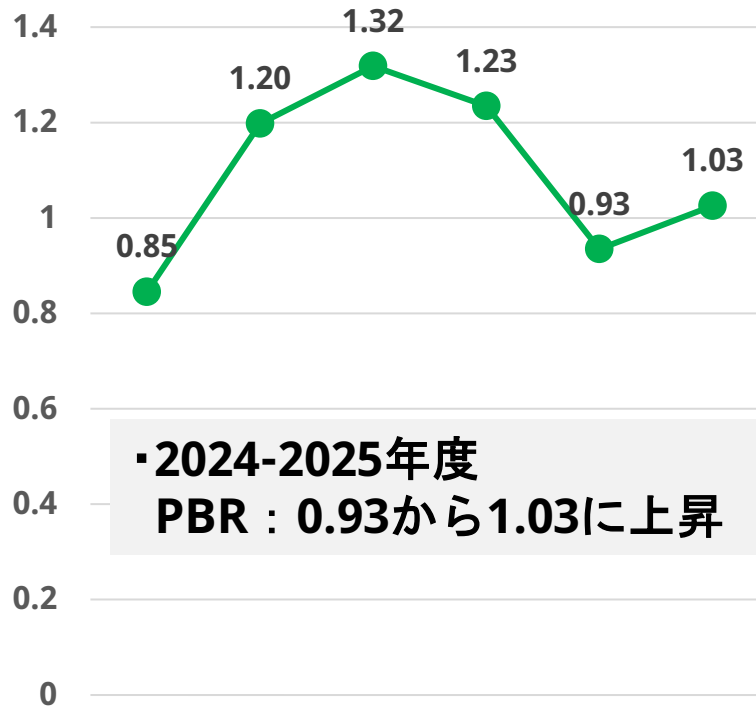
- ・2020-2021年度：一株当たりの配当額を35円から54円へ増配
- ・2021年度：配当方針の数値基準を明確にするためにDOEを導入
- ・2021-2023年度：自己株式を取得、増配などでPBRは1.20～1.32へ
- ・2024年度：8年連続の増配も、3月に株価が下落し、PBRは1.00を下回る水準へ
- ・2025年度：自己株式の取得20億円、自己株式消却1,550,000株、PBRは1.03へ

現状の評価・分析② PBR・ROE・PERの推移

PBR

(株価純資産倍率)

単位：倍

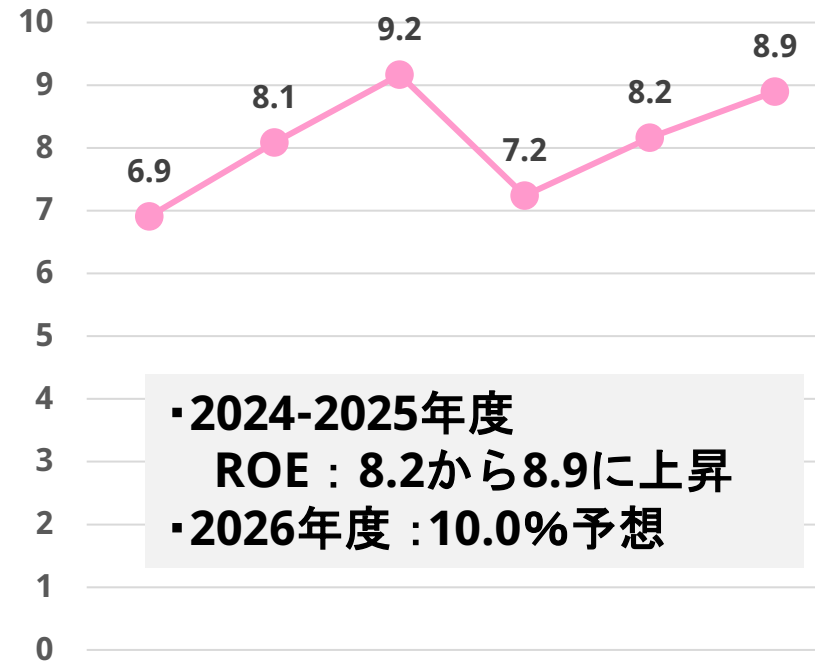


・2024-2025年度
PBR：0.93から1.03に上昇

ROE

(自己資本利益率)

単位：%

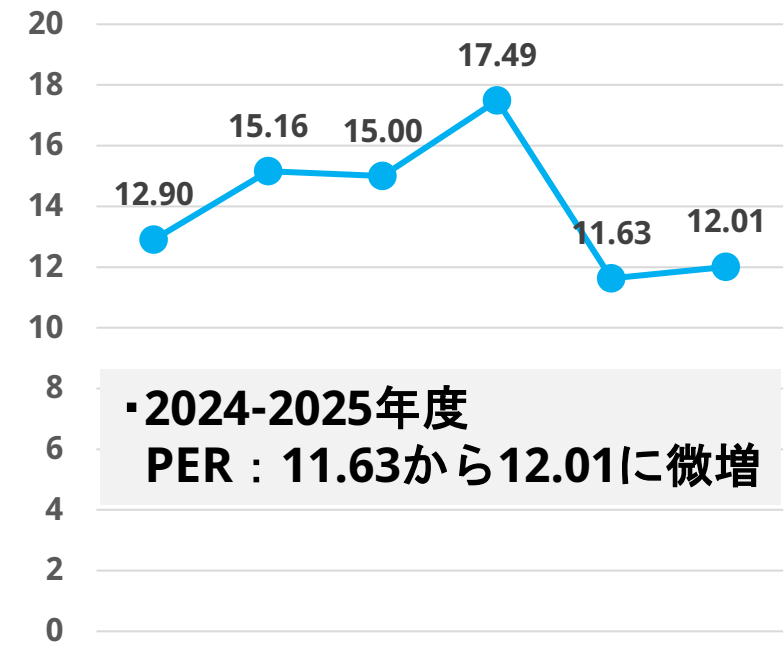


・2024-2025年度
ROE：8.2から8.9に上昇
・2026年度：10.0%予想

PER

(株価収益率)

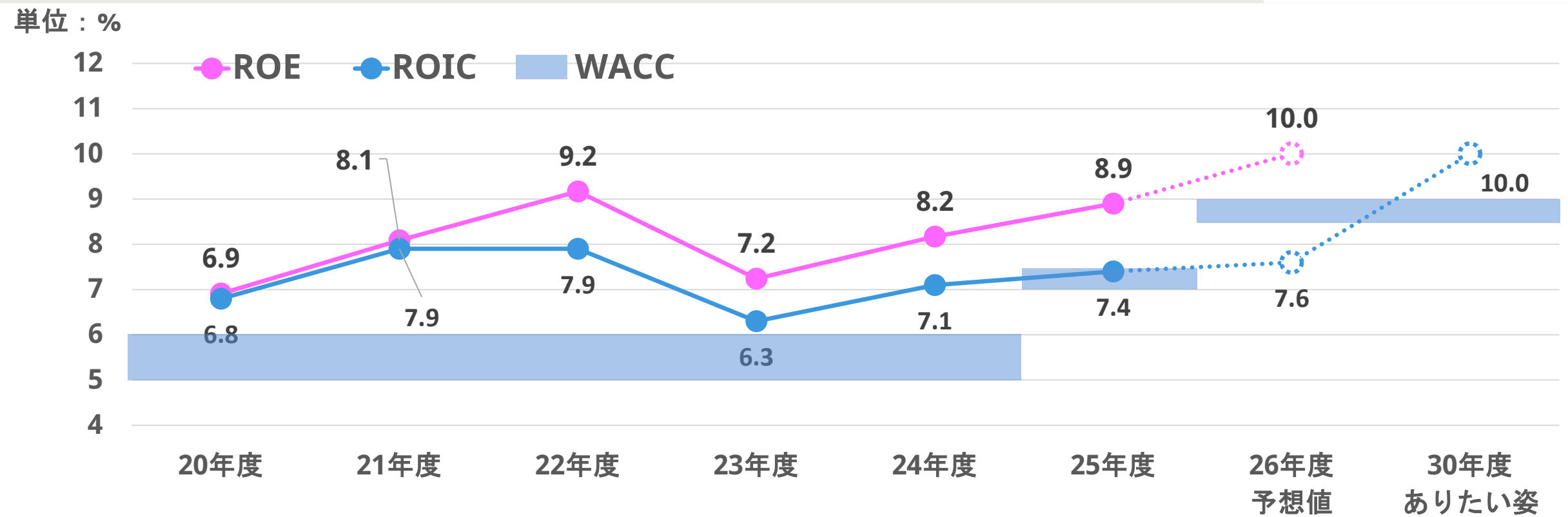
単位：倍



・2024-2025年度
PER：11.63から12.01に微増

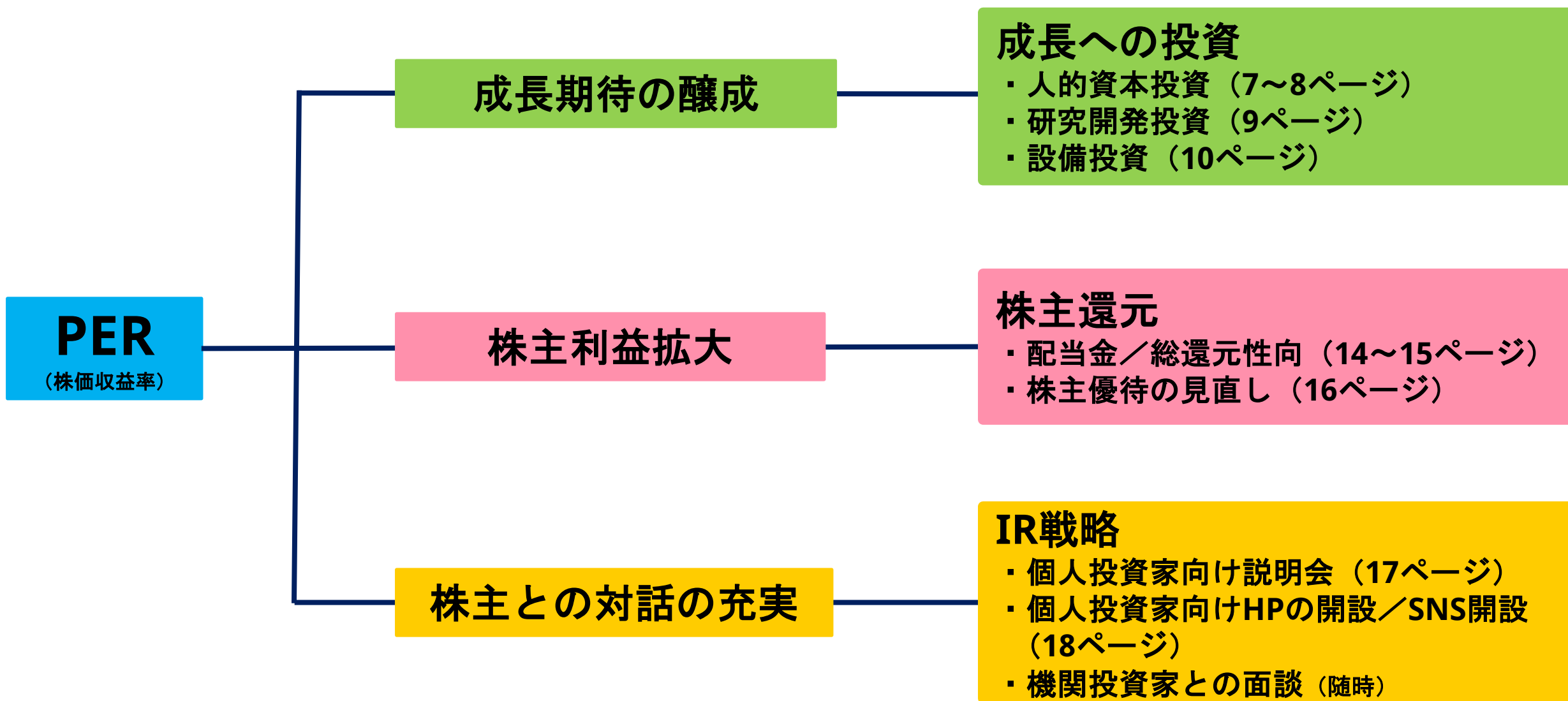
・PBRは前年比で上昇したもののさらなる改善が必要
・2026年度はROE10.0%を予想、あわせてPERの向上は継続課題として取り組む

現状の評価・分析③ ROE／ROICの推移



- ・株主資本コスト：CAPM（資本資産価格モデル）より**8.5～9.0%**程度
- ・WACC（加重平均資本コスト）：**8.5～9.0%**と認識（2025年度は7.0～7.5%）
- ・2026年度予想：ROE10.0%、ROIC7.6%
→ ROICがWACCを上回するためにはさらなる収益性の改善が必要（11～13ページ）

・政策保有株式の縮減を進める計画としており、保有株式の売却により特別損益が発生するため、当社の収益性を測る指標としては、営業利益を基準とするROICを採用しています。

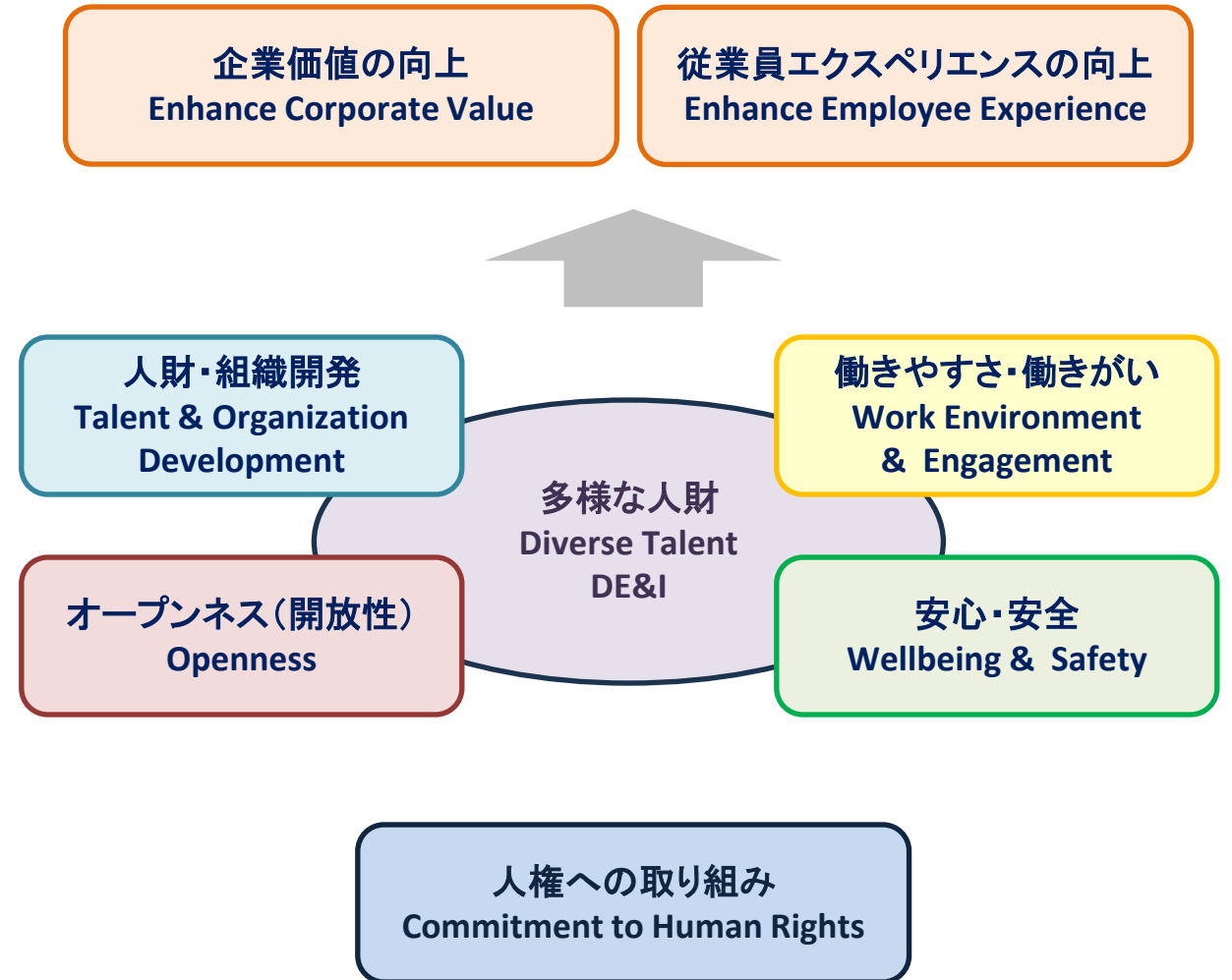


人的資本についての基本的な考え方

当社は経営理念に「日本精化は社員の自己実現に貢献する」を掲げています。

この理念のもと、全社員が持てる能力を存分に発揮し、ともに成長し、化学を通じて社会に貢献する日本精化の一員としての自覚とやりがい・生きがいを持てるような会社をつくることを目指しています。

その実現のために、学ぶ機会の提供や職場環境の整備など、さまざまな施策を実行していきます。そして、一人ひとりが成長し、活躍することで、従業員エクスペリエンスと企業価値の向上につなげていきます。



PER向上の取り組み 人的資本投資の具体的取り組み例

トータルエンゲージメント

2025年度実績: 3.49
(目標: 3.5以上)

外部専門調査による評価指標。
当社全社員を対象に点数化。
5点満点で3.5が基準。

人財・組織開発

*2025年度日本精化単体実績
*対象者: 全従業員

教育訓練費用:
年間58,535円/人
(目標: 前年水準以上: 2024年度68,289円)

管理職*に占める女性割合:
6.3%
(目標: 2030年代に30%以上)
*管理職: 課長級以上の役職(役員を除く)

多様な人財の活用

*2025年度日本精化単体実績
*対象者: 記載がない場合は全従業員

従業員に占める
女性の割合: 21.1%
(目標: 2027年度までに20%以上)

障がい者雇用率:
2.74%
(目標: 2026年度までに2.7%以上)

働きやすさ

*2025年度日本精化単体実績
*対象者: 全従業員

年間総実労働時間:
1,959時間/人
(目標: 2,000時間/人以内)

正社員の有給休暇取得率:
86.7%
(目標: 70%以上)

育児休業取得率:
80.0%
(目標: 70%以上)

男性育児休業取得率:
90.9%
(目標: 50%以上)

安心・安全

*2025年度日本精化単体実績
*対象者: 全従業員

コンプライアンス研修受講率:
100%
(目標: 100%、全員参加)

ストレスチェック受検率:
95.7%
(目標: 90%以上)

職場の心理的安全性:
3.44
(目標: 3.5以上)

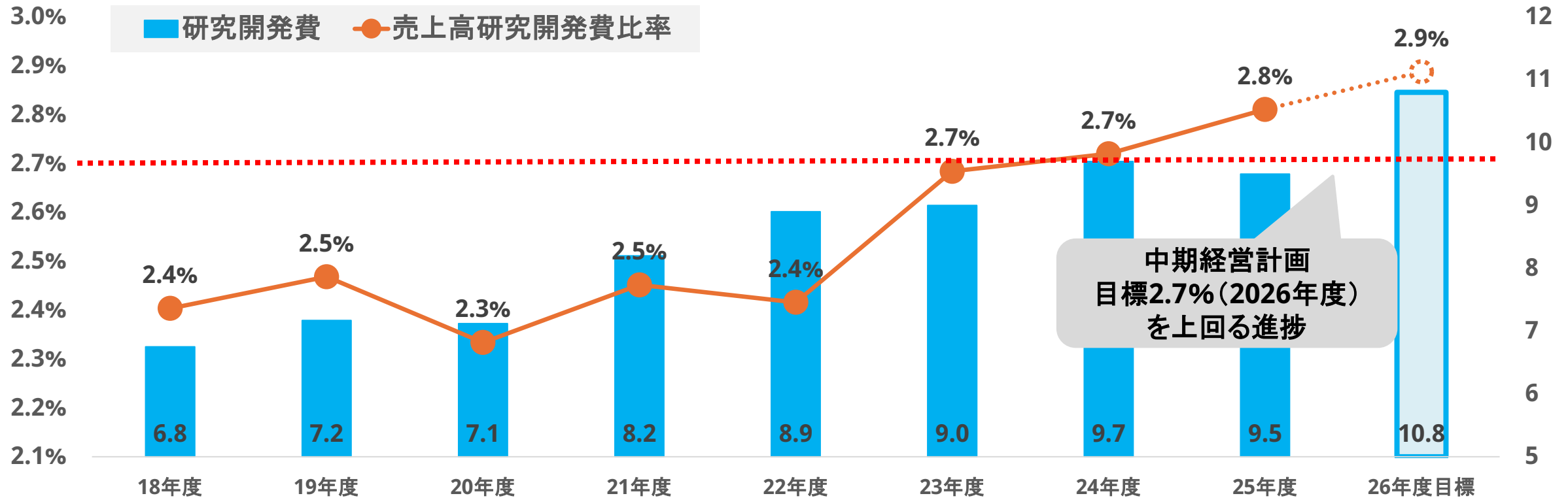
外部専門調査による評価指標。
当社全社員を対象に点数化。
5点満点で3.5が基準。

PER向上の取り組み 研究開発投資 (研究人件費を含む)

第13次中期経営計画

第14次中期経営計画

単位：億円



【ビューティケア】

- ・化粧品用リン脂質素材の研究開発に注力
- ・The Design & Creation Lab.*でのオープンイノベーション
*2024年4月、本社ビル1階に開設

【ヘルスケア】

- ・核酸医薬品用独自リン脂質の連続生産での商業プロセス化に成功
- ・湘南ラボ*から生まれるオープンイノベーションの加速
*2023年4月より湘南ヘルスイノベーションパークに参画

【ファインケミカル】

- ・ペロブスカイト太陽電池用素材の開発
 - ↳ 順構造向け正孔輸送材料の量産化プロセスの開発
 - ↳ 逆構造向け正孔輸送材料の新規開発

【ハイジーン】

- ・環境に配慮した濃縮洗浄剤を上市
 - ↳ 濃縮食器洗浄機用洗浄剤／濃縮中性除菌洗浄剤／濃縮PRTR非該当中性洗剤

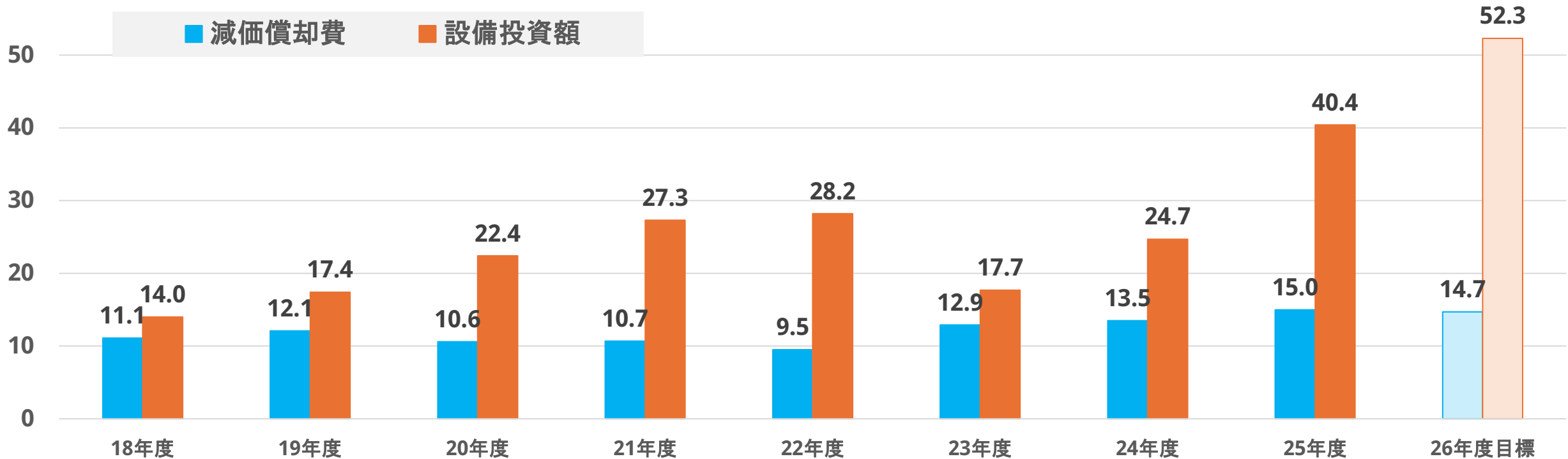
PER向上の取り組み 設備投資 (建設仮勘定ベース)

単位：億円

第13次中期経営計画 5年間総額109.3億円

第14次中期経営計画 4年間総額135.1億円

■ 減価償却費 ■ 設備投資額



21-22年度 成長投資

【医薬品用リン脂質】

3つの設備を新設 総額53億円

- ❖ 医薬品用リン脂質関連製造プラント 2つ
 - ・2023年に両プラント商業生産開始
 - ・海外向け生産を中心に順調に稼働中
- ❖ 事務研究棟
 - ・2022年5月から執務開始

23-24年度 基盤投資

【新基幹システムの導入】

- ・2023年度より稼働開始
- ・総額約5億円（デジタル化投資）

【事務厚生棟の新設】

- ❖ 加古川東事業所
 - ・2025年度より執務開始
 - ・総額約16億円（人的資本投資）

25-26年度 成長投資

【化粧品用機能性油剤プラント：CIP*】

- ❖ 高砂事業所内
 - ・生産能力：2.1～2.3倍（対現行）
 - ・投資額：約86億円
 - ・2026年4月 着工
 - ・営業稼働：2029年度上期

*CIP：Cosmetic Ingredients Plant

第14次中期経営計画（2023-2026年度）事業ポートフォリオ

収益基盤安定

- 【収益のタイミング】
・ 2022年度より前から発現
【経営資源の配分】
・ 基盤安定のための追加投資

重点成長

- 【収益のタイミング】
・ 2026年度までに発現
【経営資源の配分】
・ 最優先事項

戦略的育成

- 【収益のタイミング】
・ 2030年度までに発現
【経営資源の配分】
・ 重点成長に次ぐ優先事項

ビューティケア

- 化粧品用リン脂質素材（国内）
 - 生理活性物質（医薬部外品）
 - 化粧品用WG誘導体
- *WG：ウールグリース

- 化粧品用リン脂質素材（新用途）
- 化粧品用機能性油剤（サステナブル対応）

- 化粧品用リン脂質素材（海外）
- 化粧品用機能性油剤（海外）

ヘルスケア

- 医薬品用リン脂質/WG誘導体
 - ・ Gilead社向け
 - ・ 基本脂質 既存ビジネス
- 医薬品中間体
- 薬理／安全性試験

- 医薬品用リン脂質
 - ・ CRO／CDMO開発支援（基本脂質）
 - ・ 新設プラントのオペレーションの最適化による収益の最大化
- *CRO: 医薬品開発受託機関
*CDMO: 医薬品製造開発受託機関

- 医薬品用リン脂質
 - ・ CRO／CDMO開発支援（独自素材）
 - ・ イオン性脂質
 - ・ 連続生産による独自素材の拡販
 - ・ イノベーション（湘南ラボ）

ファインケミカル

- 各種WG誘導体
- 各種酸クロライド
- 脂肪酸アמיד
- コーティング剤

- PSC太陽電池用素材
- *PSC:ペロブスカイト

- PSC太陽電池用素材（継続）
- 新規事業での収益化

ハイジーン

- 手指消毒剤
- 手洗い石鹸液
- 公衆衛生用品

- 食品衛生用品
 - 医療用衛生用品
 - ODM事業
- *ODM: 相手先ブランドによる設計・製造受託

- アルボースブランド強化
 - ・ 産学官共同研究とグループシナジー

ROIC向上の取り組み サブセグメント別収益計画

単位：億円

2022年度

第14次中期経営計画（2023-2026年度）

2026年度予想

2030年度 見通し

ビューティケア

売上高：71.7
営業利益：19.5
(利益率：27.2%)

海外売上比率：
24.2%

- ❖ 23-24年度 海外売上が牽引して増収増益
- ❖ 25年度 在庫調整の影響で一時的に減収減益
- ❖ 26年度 在庫調整解消で増収増益の見込み
- ❖ 新プラント建設着工（2026年4月）
投資額：約86億円／稼働開始2029年度上期

売上高：100.0
営業利益：22.5
(利益率：22.5%)

海外売上比率：
44.3%

【収益テーマ】
○化粧品用機能性油剤
・CIP完成し収益貢献
・償却負担で利益減少
○化粧品用リン脂質素材
海外売上比率：52%

成長分野（投資計画推進）

ヘルスケア

売上高：56.6
営業利益：7.0
(利益率：12.4%)

- ❖ 23年度 償却負担増の影響で減益
- ❖ 24年度 海外向け販売増で増収増益
- ❖ 25年度 医薬品中間体のスポット受注
- ❖ 26年度 競合参入で利益率減の見込み

売上高：76.0
営業利益：14.0
(利益率：18.4%)

【収益テーマ】
○医薬品用リン脂質
・湘南ラボのテーマ
・CROテーマ
・連続生産実用化

成長分野（投資回収）

ファインケミカル

売上高：70.5
営業利益：12.4
(利益率：17.6%)

- ❖ 23-24年度 選択と集中を推進し減益
- ❖ 25年度 WG誘導体の販売増とコストダウンで増収
- ❖ 26年度 WG誘導体の効率的生産体制の推進
- ❖ PSC用素材：社会実装に向けたスケールアップ検討

売上高：65.5
営業利益：10.3
(利益率：15.7%)

【収益テーマ】
○PSC用素材
○新規事業での収益化

再構築（選択と集中）

ハイジーン

売上高：80.7
営業利益：7.4
(利益率：9.2%)

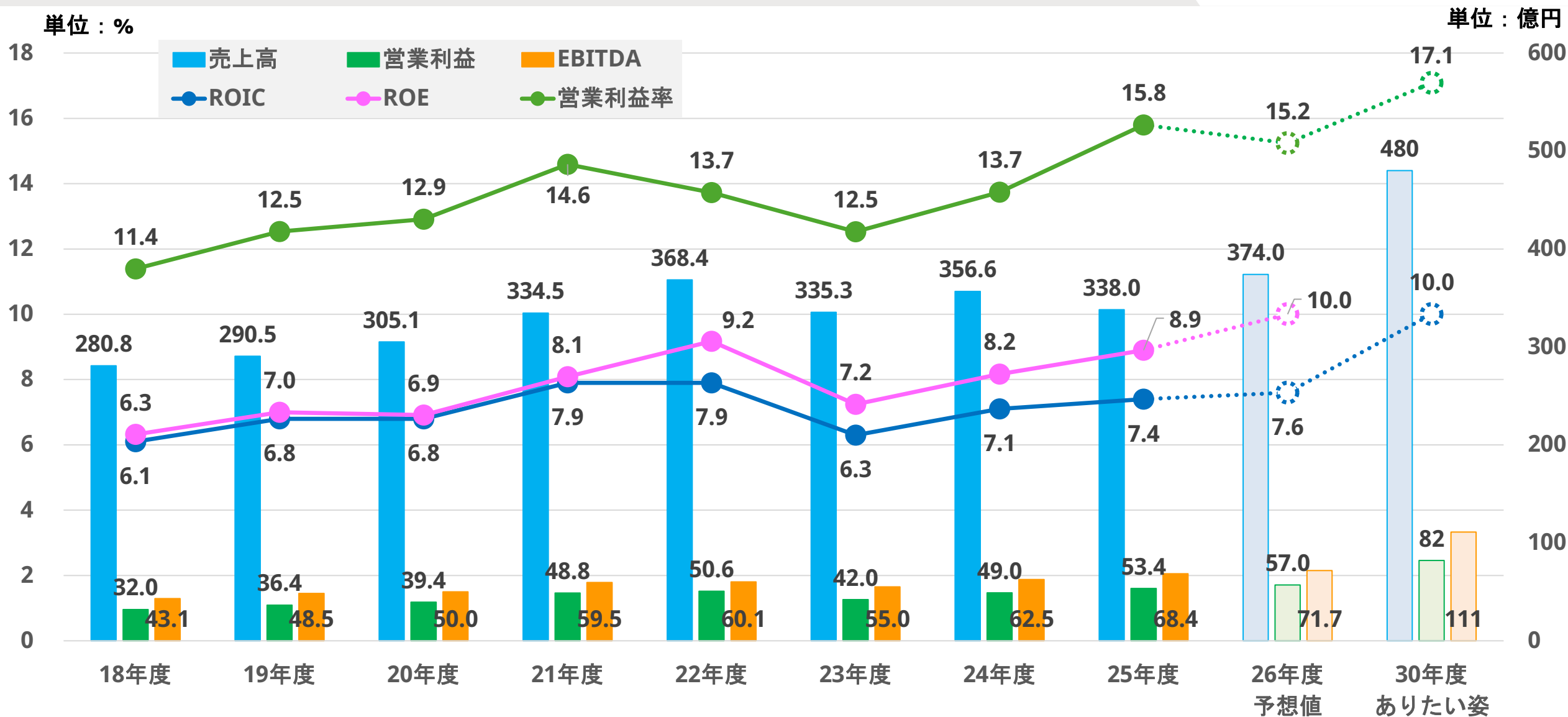
- ❖ 23年度 COVID-19の反動による在庫過多で減収
- ❖ 24年度 マーケティング体制の整備
- ❖ 25年度 フードビジネスをターゲットに増収
- ❖ 26年度 濃縮洗浄剤での販売強化

売上高：78.5
営業利益：7.1
(利益率：9.0%)

【収益テーマ】
○食品衛生用品
○医療用衛生用品

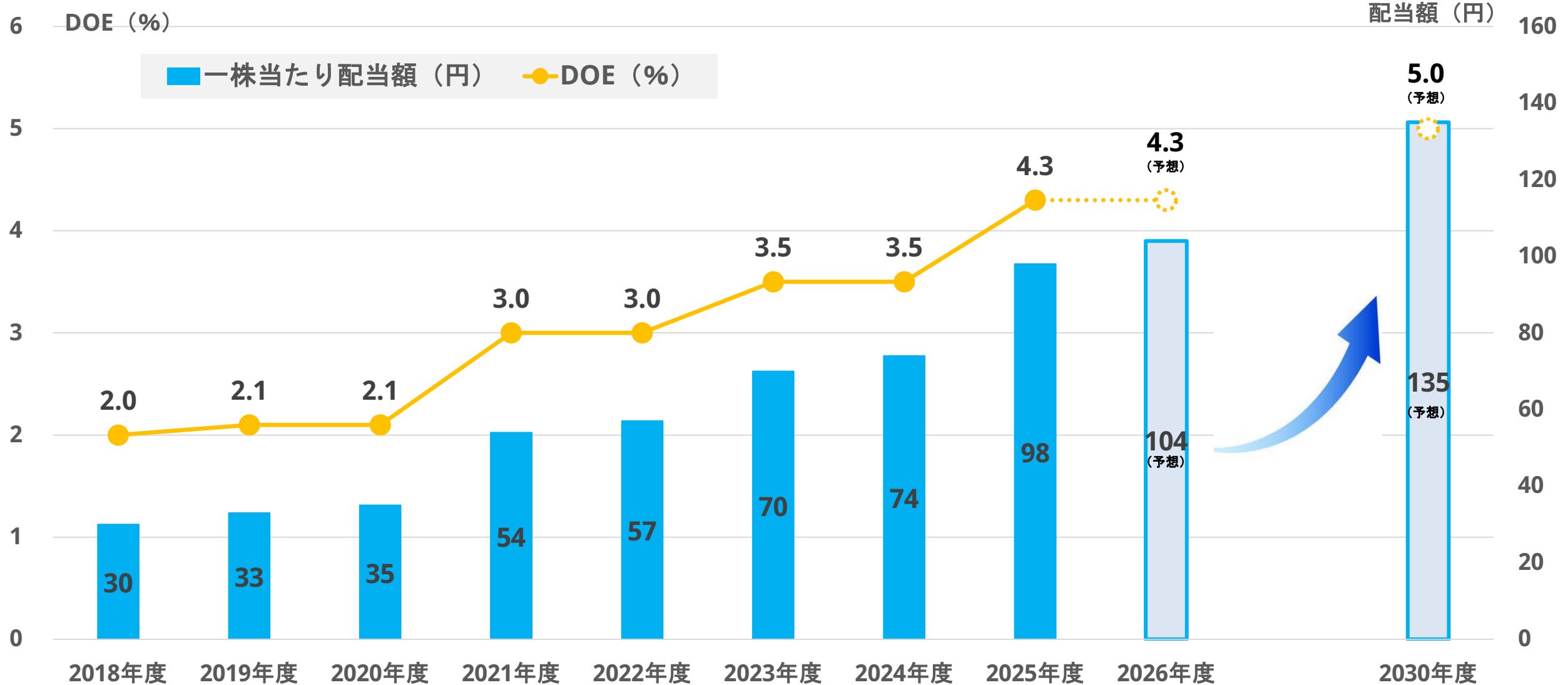
再編（重点領域の見直し）

ROIC向上の取り組み 連結収益計画



○2030年度には、営業利益率：17%以上を目指す

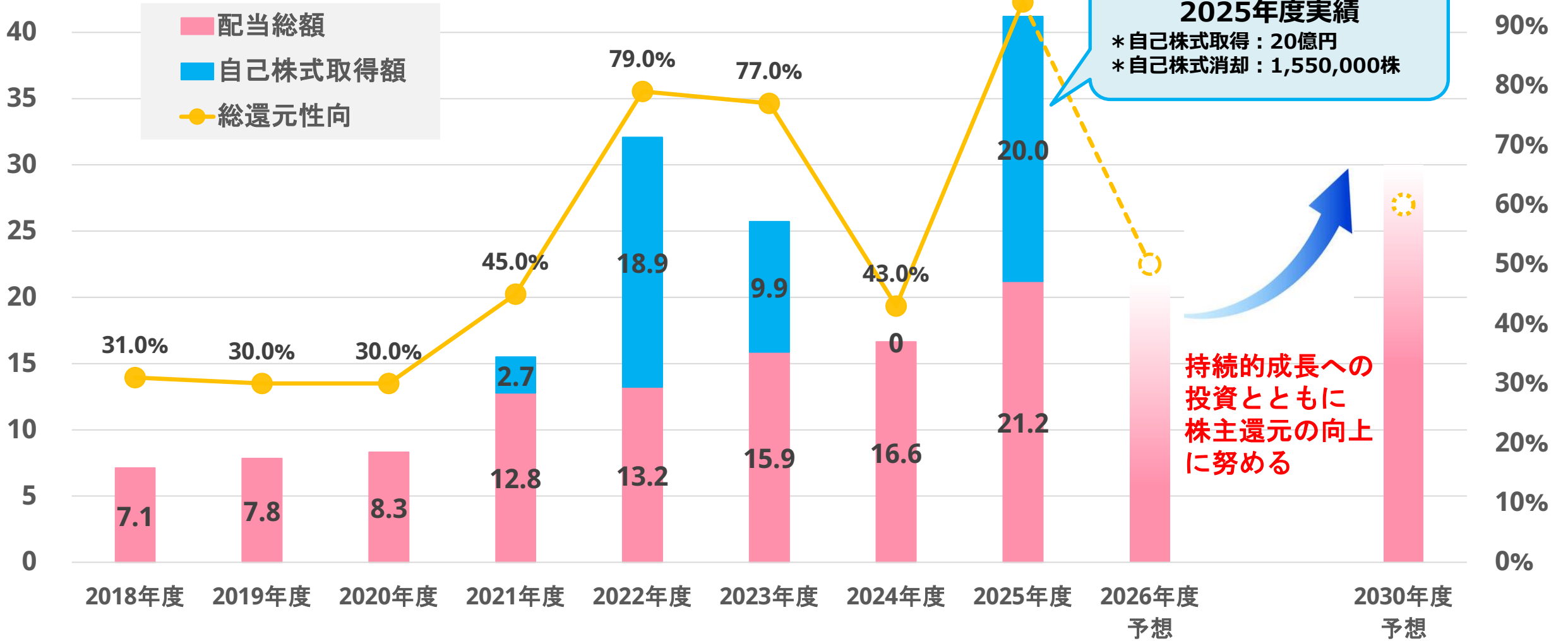
○ROICは、2026年度に8.0%、2030年度に10.0%を目指す



○2026年度 1株当たり配当は**104円**を予想 ○2030年度 **135円**を目標に段階的な増配を見込む

株主還元

45 単位：億円



○総還元性向：2023-2026年度4年間平均50%以上に設定 ○政策保有株式比率：2026年度までに17%以下に設定

*総還元性向：（配当総額＋自己株式取得額）÷親会社株主に帰属する当期純利益

●変更前の優待内容

保有株式数	優待品
1,000株以上	7,000円相当の当社グループ会社製品

●変更後の優待内容

保有株式数	優待品 継続保有期間 3年未満	優待品 継続保有期間3年以上
100株以上500株未満	—	3,000円相当の当社グループ会社製品
500株以上1,000株未満	3,000円相当の当社グループ会社製品	4,000円相当の当社グループ会社製品
1,000株以上	7,000円相当の当社グループ会社製品 または、5,000円相当のポイントでカタログギフト から1点選択	8,000円相当の当社グループ会社製品 または、6,000円相当のポイントでカタログギフト から1点選択



日本精化株式会社

個人投資家の皆さまへ 会社説明会



野村インベスター・リレーションズ株式会社 ホームページに掲載



- 認知度向上を目的にウェビナーを初めて実施し、2026年12月にも実施予定

当社ホームページ・Instagram・Facebook

<https://www.nipponseika.co.jp/investors/individual/>



個人投資家の皆様へ特設サイト開設

https://www.instagram.com/nfc_corporate_official/



nfc_corporate_official ...

日本精化公式アカウント

投稿4件 フォロワー48人 フォロー中39人

日本精化株式会社【公式】
「キレイ」のチカラでみんなを笑顔に
地球・社会・未来の「キレイ」を応援するESG企業です。
事業紹介・取り組み・採用情報をお届け！
※DMの個別返信は行っておりません

🌐 www.nipponseika.co.jpと他1人

👤 フォロワー: nippon_fine_chemical_official

フォロー中 ✓

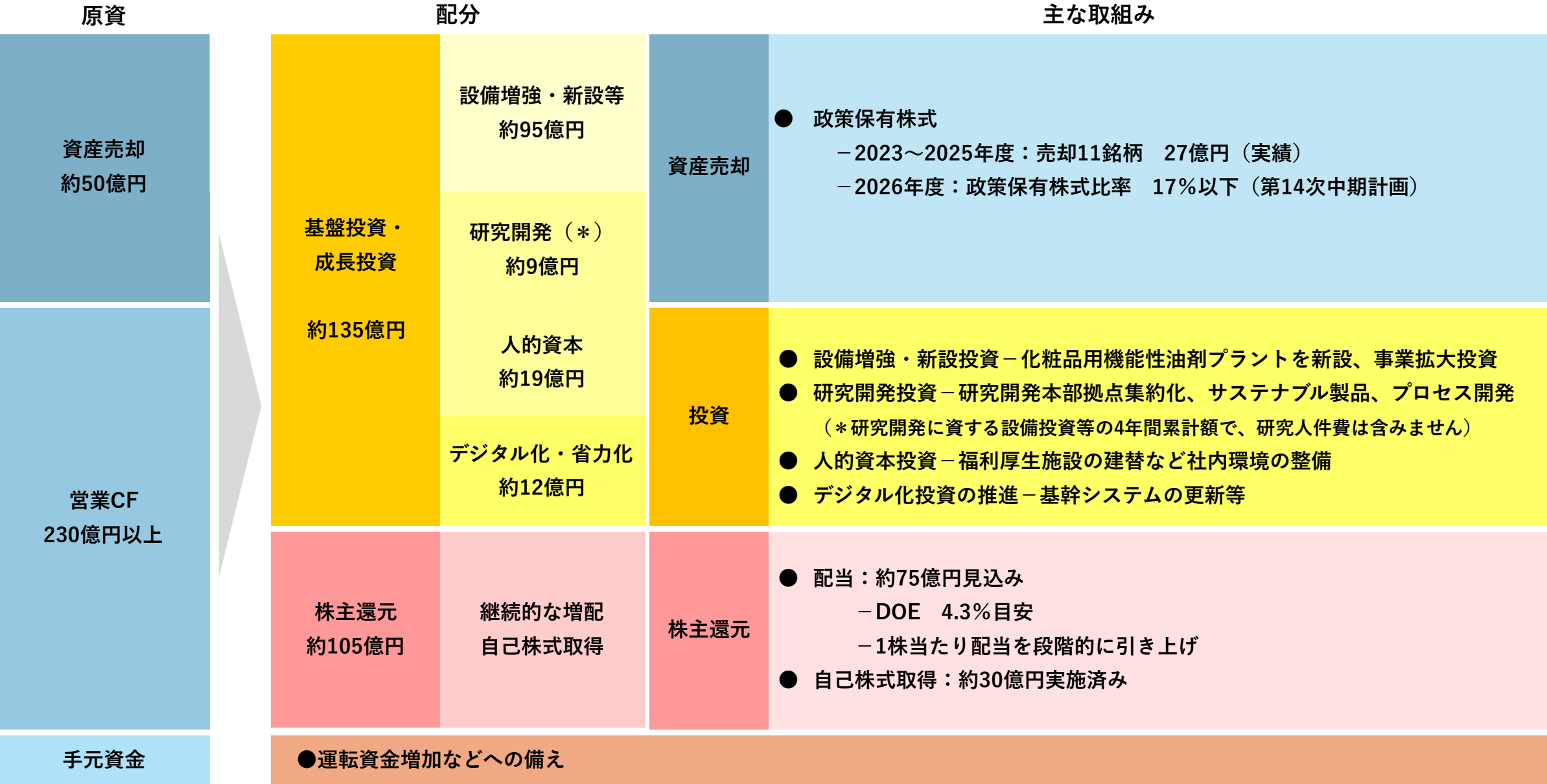
メッセージ

👤



公式Instagram／Facebook開設

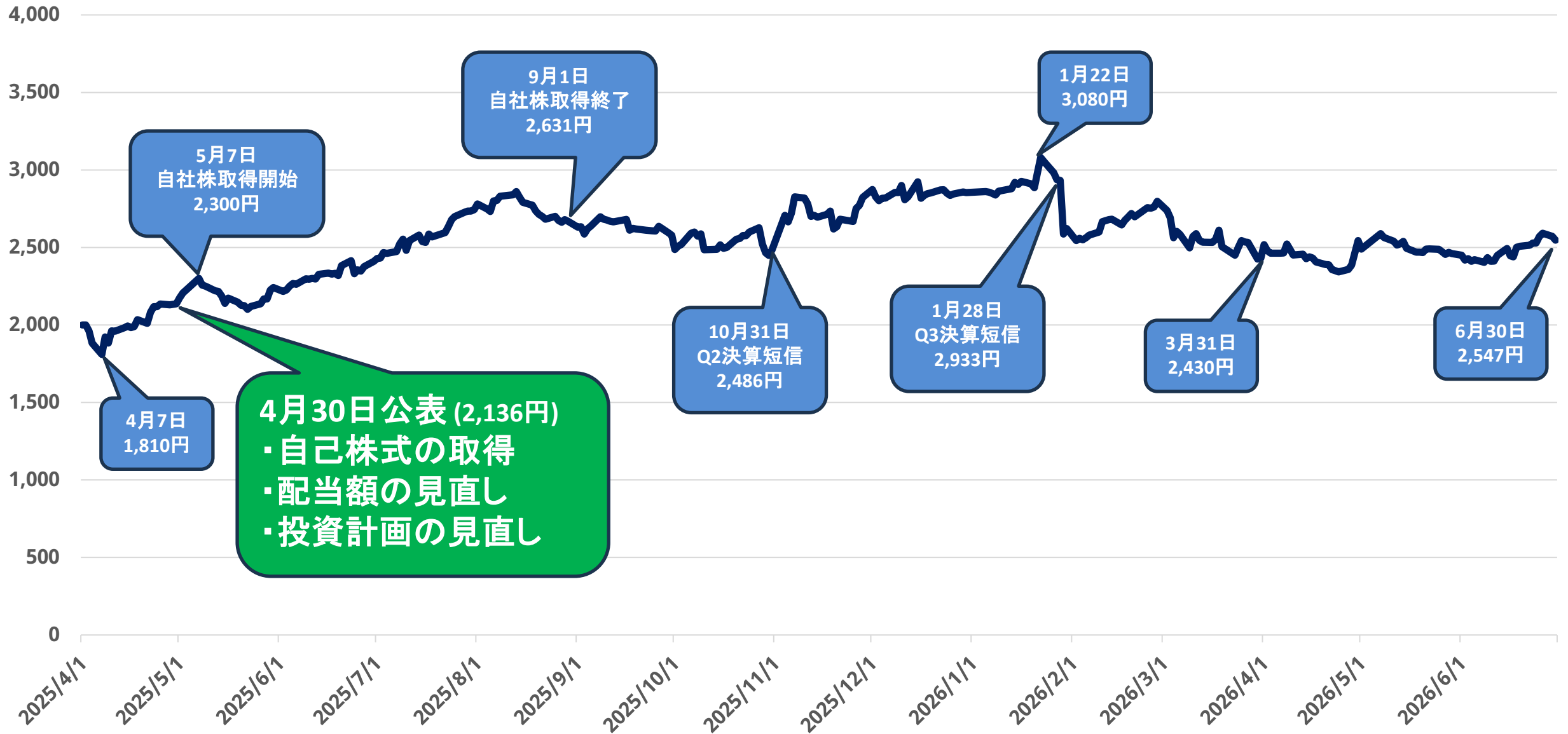
第14次中期経営計画（2023-2026年度）キャッシュ・アロケーション



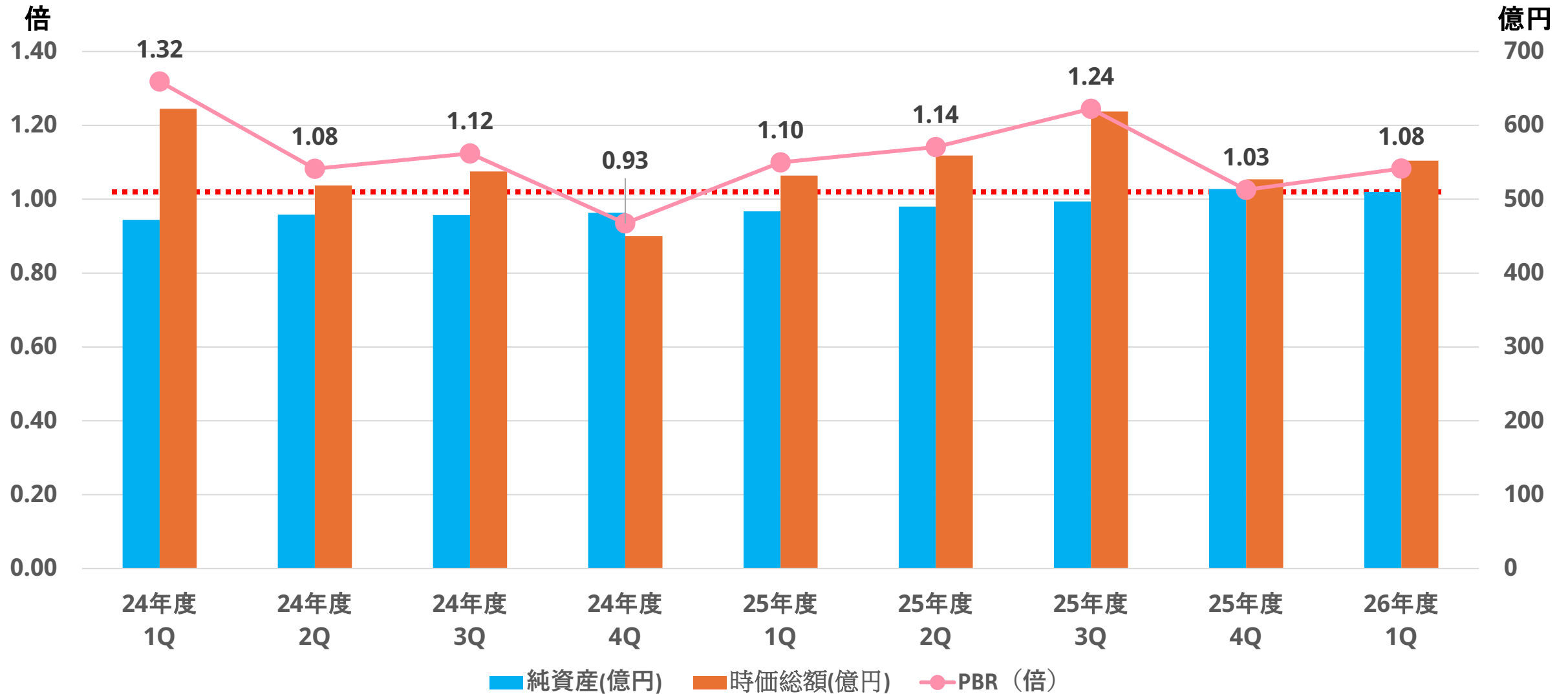
本資料に記載している業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果となり得ることをご了承ください。

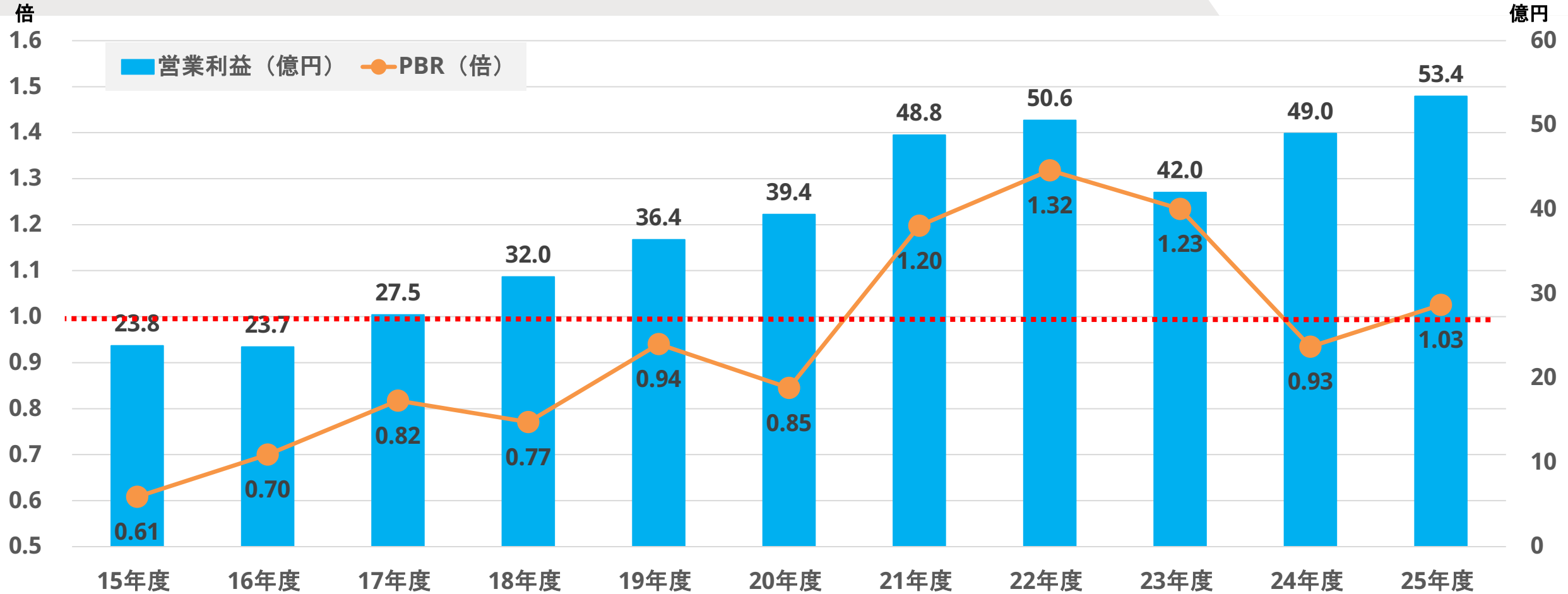
Appendix 株価推移（2025.4.1～2026.6.30）



Appendix 2024年度以降 四半期ごとのPBR推移



Appendix 営業利益と株価純資産倍率（PBR）の推移



- ・2020-2021年度：
- ・2021年度：
- ・2021-2023年度：
- ・2024年度：
- ・2025年度：

一株当たりの配当額を35円から54円へ増配
配当方針の数値基準を明確にするためにDOEを導入
自己株式を取得、増配などでPBRは1.20～1.32へ
8年連続の増配も、3月に株価が下落し、PBRは1.00を下回る水準へ
自己株式の取得20億円、自己株式消却1,550,000株、PBRは1.03へ